

3. 教育学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 9)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 10)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 28 年度から必修専門科目の見直しを行い、研究の全体的プロセスを実際に体験することで、学生の学びの基礎力を培い、その後の専門的な学びのモチベーションを高めることを目的として、探究的な初年次専門教育「教育研究入門Ⅰ」をリレー講義方式から探究型授業へ、「教育研究入門Ⅱ」はアクティブラーニングの要素を取り入れるなどリニューアルを行った。前者はグループで決めたテーマを考察しポスターにまとめ、学会発表を模したポスター・プレゼンテーションにて発表させるものであり、後者では個人で研究を進めレポートを作成し発表させるものである。授業評価アンケートの記述などから、この授業に対する受講生の満足度は十分満足からほぼ満足までをあわせると、平成 28 年度から平成 30 年度平均で約 66%と総じて高く、とりわけ充実した実施体制や探究型の授業方法に対して評価する声が多いことがわかる。これらの授業によって、学習・研究意欲や批判的に考える力、プレゼンテーション能力や文章を要約する能力等が上昇したとのエビデンスも得られている。
- 教育学部教授会において、GPA 分布表の分析結果等の報告を行い、各教員へ学部生の入学後の動向がフィードバックされている。
- 一般入試ではセンター試験に加えて、個別学力検査において文系型（地理歴史、数学、国語、外国語）、理系型（理科、理系用数学、国語、外国語）によって評価しているとともに、さらに特色入試を実施し、受験生の多面的な能力を評価している。とくに特色入試では、高大接続を重視し、学びの設計書を提出させるとともに、探求的な学力を評価するためにパフォーマンス評価も取り入れている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 平成 30 年度教育学部卒業生に対する教育・学習に関する卒業時アンケート調査によると、9 割以上の学生が、「広い視野」（90.9%）、「異質なものへの理解と寛容」（94%）が、「かなり身についた」、「ある程度身についた」と回答している。また 8 割以上の学生が、「批判的判断力」（89.4%）、「多面的・総合的な思考力」（85.6%）、「心・人間・社会についての専門的識見」（84.9%）、「人間らしさを擁護し、促進する態度」（80%）が、「かなり身についた」、「ある程度身についた」と回答している。このことから、ディプロマ・ポリシーに掲げているほぼすべての項目を達成していると判断できる。